

キャリアコンサルティング技能検定 2 級 学科・実技（論述・面接）試験 体験記

平成 29 年 3 月 20 日

2 級受検番号 03S1120197 Schuh.YAMADA

1. 試験に向けた準備の状況

(1)いつから始めたか

第 1 回国家資格キャリアコンサルタント試験の受験もあったことから、7 月末の 1 級技能士の会の養成講座終了後に着手。2 級技能検定受検の対策としては、学科は 4 ヶ月強前から、面接は 11 月後半から着手し、仕上げの本腰を入れたのは 1 月後半、試験の直前の 2 週間。

(2)どのような内容をどの程度行ったか

学科は、国家資格キャリアコンサルタントの養成講座機関のテキストや木村周先生のご著書その他、「キャリアの青本Ⅱ」「キャリアの青本Ⅱプラス」「1 級キャリアの青本 & 赤本（合体版）」等を読み込んだ。

さらに、過去問題として、本試験の問題や過去問集、「キャリアの赤本」「別冊キャリアの赤本」を一通りやり、間違えた問題、自信のない問題は 3 回程度復習した。

実技は、本試験の第 13 回から第 16 回までの論述問題を自分なりに解答、面接ロールプレイ（RP）問題は CL 視点、CC 視点の問題洗いだし、目標設定、方策の実行等をペーパー上で実施した。

面接実技について力不足を感じていたため、ある団体の講座を受講したが、合格基準の体系的な理解や何をどうすれば合格するのかの自信が持てず、適切に力をつけていく方法が見つけれず悩んでいた。

そんな時、1 級技能士の会の「課題解決/論述三昧」や「2 級実技（面接）試験対策短期集中強化講座 2 日コース」を受講したことで、論述の実技試験における位置づけ、評価区分の正しい理解、面接タスク表による体系的・構造的な理解によって面接への取り組み方の納得感、自己効力感が得られたと同時に自己理解が進み、自分の課題が明確になった。それを踏まえ、講座後は協力者との RP 機会が持てなかったため、自身でタスク表を元にイメージトレーニングを何度も実施した。

(3)準備に対する振り返り

学科は、試験日から逆算して、他のテキストなどを適宜併用したり、インターネットで詳細を調べながら、「青本」、「赤本」を中心に計画的に進めていったことで、過去問をやる頃には概ね 8 割程度の理解度に達していた。

面接は、1 級技能士の会の講座が実質的に実践面での準備となった。特に、具体的にどのような言葉でオープンクエスチョンをするのか、上手く相談者に響いた言葉や話の流れを変えるきっかけとなった言葉等、実践面で使えるようなフレーズを書き留めておいた。面談の練習として、RP 実施の協力者を確保できず、また 1 級技能士の会の直前講座に参加しなかったが、他の所用や他の試験等の都合で受講できなかったため、結局は自身でのシミュレーションを念入りに行うことで自己効力感を高めていった。

(4)これから受検する人へのアドバイス

学科については、設問形式が、単純な暗記では解答できないものになってきていることから、しっかり各項目の経緯や背景、意味合い等を読み込んで理解しておきたい。白書、関連省庁の答申、統計データは、試験に出る可能性のある観点で概ね「青本」に載っているので非常に効率的に学習ができると実感した。さらに、労働関連の月次更新データ等、インターネットでの直近データの確認によるトレンドの把握は必要である。計数関係の情報は、なかなか構えて覚えられないものではないので、5 分単位の隙間時間を見つけては眺める等、常に「青本」を持ち歩くくらいの状態で（覚えるというより）目にイメージを焼き付けた。

実技に関して、論述は、やはり独学では限界があると思われる。1 級技能士の会の論述三昧で教わったタスク分

解のメソッドが分かりやすく私の壺にはまった。さらに、マーカーでラインを引き、番号をつけることで下書きに代える方法とし、本番でもそれを実行して上手くいった。

面接については、私の場合は RP の機会を持てなかったが、可能な限り協力者を確保して実練習を積むことをお勧めしたい（数をこなすことにより応用力、自信がつく）。

2. 論述試験での当日の取り組み

講座で習ったようにラインマーカーを使って、CL の感情・CL 視点の問題点、CC 視点の問題点、その他キーワードに色をつけ、解答の素材がどこにあるのか全体を俯瞰、把握した。

(1) 問 1 を解答するときに注意したこと

CL の感情・CL 視点の問題点と思われる箇所にマーカーを引き、それは CL の問題点か？解決したいことか？と自問して絞り込んでいった。漏れと重複がないように見直したうえで、マーカー箇所に番号をつけ、解答スペースに合わせて箇条書きの候補を絞り込み、はみ出ないように文章を整え、推敲して清書した。

(2) 問 2 を解答するときに注意したこと

CC 視点の問題点にマーカーを引き、CL が気づいていない問題点か？自問して絞り込むとともに、文字には表れていない問題点、気づきについてメモ。啓発的な課題を含め、問 1 と同様にはみ出ないように文章を整え、所定の解答スペースに清書した。

(3) 問 3 を解答するときに注意したこと

6 分野のうち、自己理解、仕事理解、中長期視点の 3 点は必ず押さえること。問 3 については、論述三昧の講座で学んだ内容を予めテンプレート化しておき、直前で数回、空で書いてみる練習をしたお蔭で本番はスムーズに記述することができた。

(4) 論述試験対策のポイント

論述は「実技」の位置づけであり、面接を文字に落とし込んだものとして認識することがまず大事。また、基本となる 6 分野のプロセス、特に自己理解、仕事理解については確実に洗い出せるように逐語事例を沢山こなすことが必要。

(5) これから論述試験を受検する人へのアドバイス

論述を理解することは、すなわち面接実技の構成、フローを理解することと同じなので、どんな逐語ケースが出ても対応できるように自信をつけておきたい。

3. 面接試験当日の状況

(1) 試験会場 東京	(2) 事例番号 4 (西村智一)	(3) 口頭試問の時間 6 分
-------------	-------------------	-----------------

4. 面接試験の状況

(1) 導入部
自己紹介、守秘義務通知。椅子の位置、向き、距離感の確認。主訴からゆっくり話していただくよう促す。

(2) 基本的態度
お互い開始時は緊張していることを前提に、敢えてゆっくり話すよう心がけ、主訴を聴き漏らさないように注意。ロジャーズの 3 条件を念頭に、共感的に理解し、それを丁寧に伝え返す。

(3) 関係構築
CL の話す内容を傾聴し、理解したことを伝え返すことで安心感を醸成。これまでの営業経験、実績について自ら語っていただくよう促し、コミットしていく。

(4)問題把握

①企業に継続勤務することを前提としたアクション ②独立した場合の準備

(5)具体的展開

①今後の見通しについての情報収集、現状を伝えるための情報提供の場を設けるアクションをとること。

⇒進展の可能性を見極める

②今後の独立に向けた準備を進めること ⇒進展しない場合の身の振り方

この①②を踏まえて、CLご自身でどちらにするか、どうしたいか、決められるようになることを目標としたいが、如何か？ ⇒CL 合意

目標の合意後、①②の方策について会話を進めている途中で 20 分経過。

(6)口頭試問の内容と回答

①良かった点、改善点（1 分程度で）

面接を通して、自分をありのままに受容し、自己一致した状態で相談者と接したこと。

問題点の把握ができ、具体的な目標設定等、具体的に話が展開できたこと。

②関係構築はできたか。また、その理由は。

できた。営業実績として CL が取引先に頼りにされている様をコミットした時の顔の嬉しそうな表情、

CL 自ら自慢げに会話をするようにまで気持ちが和らいだと思われること。

③CL 視点の問題点、CC 視点の問題点は。

CL 視点－営業部へのテコ入れがあり、その方針についていけない。

CC 視点－方針の趣旨理解（テコ入れへのネガティブな思い込み）

④上記の 2 つの問題に対して、実行したことは。

上記 CL/CC 視点の問題、および目標の共有、合意。

5. これから受検する人へのアドバイス

学科、実技とも、まず受かるための綿密な計画が必要。

学科は統計を含め、覚える範囲、量が膨大であるため、効率的に「青本」を中心に勉強することを推奨。それぞれの学習分野での重要項目は、サマリレベルの内容では太刀打ちできないケースが多くなってきているようなので、専門書やインターネット、白書、答申等の情報を深掘りして理解を深めることで対処。記憶の必要な問題は、「赤本」での反復学習により、維持する。

論述、面接ばかりは自己流が通らない領域なので、合格のメソッド、ノウハウを有する指導機関に頼る、支援をしてもらうことが最も合格に近づく方法だと思料する。特に、面接に関してはどんな CL ケース、相談者にも対応できるよう、汎用的なフレームワークを理解したうえで、繰り返し相応のトレーニングが必要。

本番では、本当の CL と対話するつもりで臨み、肩の力を抜いて展開を楽しめば道は開けます。

以上